

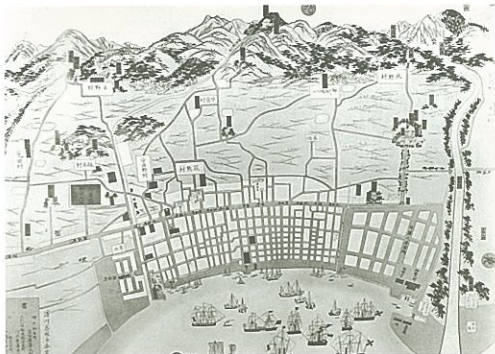


開港当日諏訪山から眺めた神戸港 (イラストレイテッド・ロンドン・ニュース掲載)
画面の白い部分が造成中の居留地で、慶応4年7月24日から競売が行われ、商館がほぼ建ち並んだのは明治6年末である。



エエジャナイカ踊り

開港当日、港には開港式を見ようと大勢の市民が押し寄せた。当時神戸では、皇太神宮のお札をまき、世直しと豊作、無病を祈る「エエジャナイカ踊り」がはやっており、開港式が行われた運上所へ向かって踊り込んだという。



開港当時神戸の図

浜辺に税関の前身、「御運上所」の名が見られる。居留地は区画ができただけで工事は施工していなかった。



開港当日海から眺めた神戸港 (イラストレイテッド・ロンドン・ニュース掲載)

中央に見える高灯籠は、生田神社前の名高い灯籠で、沖を航行する帆かけ舟はこの灯籠が見え始めると、帆をおろして生田神社に航海の安全を祈願したという。右手の国旗はイギリス領事館を示す英国旗。



兵庫奉行 柴田日向守剛中(右端) (ライデン大学蔵)

兵庫運上所を監督したほか、開港を含む外交事務を担当した。写真は、文久2年(1862年)幕府使節として欧行した際ロンドンで撮影したもの。右から2人目は通訳として同行した福沢諭吉。



兵庫裁判所総督
東久世通禧

新政府の兵庫表外国入
広接掛として着任、神
戸運上所を開設し、そ
の基礎を固めた。



明治元年の兵庫裁判所 (後の兵庫駐庁)

明治新政府のもとでは、兵庫鎮台、兵庫裁判所と地方行政が変遷し、地方の諸政務のほか運上所を始めとした外国事務を所掌した。明治元年5月23日兵庫裁判所は兵庫県と改称し、伊藤俊輔(博文)が初代県知事に任命された。



明治2~3年頃の神戸村船入場 (第一波止場の前身)

安政2年(1855年)3月、網屋吉兵衛が自費で船たて場(ドック)の建設に着手、安政6年に完成した。これが後に運上所の船入場となり、開港時唯一の波止場であった。



明治初期の居留地海岸 (神戸市立博物館蔵)

明治4年7月の台風で居留地は大きな被害を受けた。海岸の護岸壁が完全に破壊され、メリケン波止場の東側にあった運上所の監視所も吹き飛ばされてしまった。



居留地風景 (Bバーナード筆、明治11年、神戸市立博物館蔵)

居留地には、領事館、商館、銀行、教会、ホテル、クラブ、住宅、倉庫等があり、我が国の警察権も及ばない、日本の中の小さな異国といった趣があった。



明治中期の居留地海岸通り (メリケン波止場根元から東方を望む)



兵庫港遊歩規定図 (明治10年頃作成、神戸税関蔵)

明治2年兵庫港は、外国人の旅行区域(神戸周辺25マイル以内)を定め、その貿易活動等を開港とその周辺に制限した。



明治2年の生田の森(中央) (神戸市立博物館蔵)

生田の森は、現在とは比較にならない程の大森林であった。森の左側の松並木は西国街道、さらにその左に白く蛇行して見えるのは付け替え前の生田川。